

2-3 元気クラブいなべ

平成17年2月、総合型地域スポーツクラブ「元気クラブいなべ」が全国に先駆けて社団法人格を取得し、独立した団体として活動を開始しました。

このクラブは老いも若きも、初心者から上級者まで、様々な種目を選択できるスポーツクラブです。志や趣味を同じくした人が集い、支え合い、鍛え学び合い、そこで自己実現を図ることを目的とします。従来の健康づくり課の健康増進事業を引き継ぐとともに、その研修のノウハウを活かし、県や企業からも積極的に事業を受託し、地域全体の健康の増進に努めます。

運動不足とは分かっているが最初の一步を踏み出すことができない人、スポーツをしたくても誰に相談すればよいのか分からない人、優れた技能を持つ隠れた名選手、名コーチなど、様々な情報を集約し、誰もが参加でき、お互いが支えあう総合クラブをめざします。

体育協会やスポーツ少年団、体育指導委員、各自治会のみなさんの協力を得ながら、運動やスポーツをとおし、「少しでも良くしよう、悪くならないようにしよう」と人生を前向きにとらえる人を育て、健康増進のみならず、地域全体が活性化することを期待します。



元気づくり体験

2-4 食の教育

安全で安心な食物を正しく楽しく食することは健康の基本です。また、そのことを幼少のころより習慣づけることが重要視されています。保育園や学校では給食を通じて食の教育に力を入れています。特に、すべての児童が温かいごはんを食べられるよう、北勢町、員弁町の各保育園の炊飯設備を整備し、平

成17年4月からお弁当でなく、温かいごはん給食となります。員弁西小学校、東小学校でも大安給食センターを増設し、配送することにより9月からは米飯給食を予定しています。

また、北勢中学校、員弁中学校の学校給食も、給食施設の整備や調理、維持管理体制など様々な分野から検討を進めます。

2-5 医療費の抑制

国は医療制度改革の中で、近い将来、市町村が運営している国民健康保険を都道府県に移管するという方針を打ち出しました。全国の自治体のうち2/3の国保運営は赤字であり、医療費抑制は全国的に深刻な課題です。

いなべ市国保の年間一人当たりの医療費は、平成14年度の約35万円に対し、平成15年度は約40万円と、依然高い数値にあります。平成17年度も、赤字補てんとして一般会計から2億8千万円（前年度比6百万円増）の繰入金を見込んでいます。

国民健康保険会計の健全化と医療費の抑制は大きな課題です。国の医療制度改革の動向を見据えつつ、医療機関と連携し、人間ドック、健康診査の受診率の向上、重複受診の抑制、レセプト点検の強化など過剰な医療の削減を進めてまいります。しかし、保険料についても大いに議論していただく必要があると考えます。

2-6 阿下喜温泉

阿下喜の商業地域全体を一つのショッピングモールと見立て、総合的に活性化計画を進める「中心市街地活性化事業」の中核事業としてはじめられたのが阿下喜温泉事業です。しかし、事業の難しさや補助制度の廃止などにより、商業温泉として進めることが困難となりました。そこで、健康啓発や介護予防の機能を入れることにより、合併特例債を適用し、建築費6億円のうち、4億円を国からの交付金で賄う予定で事業を進めています。

阿下喜温泉の泉質はアルカリ性単純泉でさらっとしており、お湯を循環しない源泉のかけ流しを予定し、要望の多かった露天風呂と足湯も設計に加えました。誰もが気軽に新鮮なお湯を楽しんでいただける施設です。

また、元気な高齢者の生きがいサービス、介護予防のパワーリハビリ、元気づくり体験の専用ス